

経営比較分析表（平成28年度決算）

神奈川県横浜市 市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	民間企業出身者
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	33	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
3,735,843	42,124	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

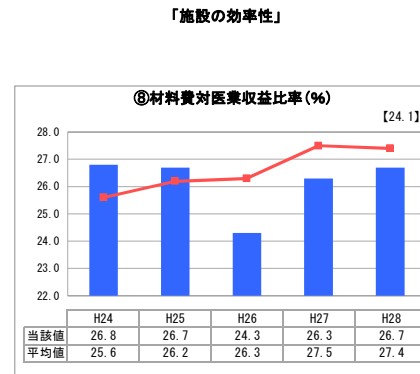
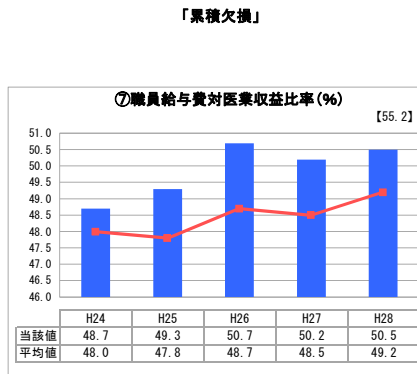
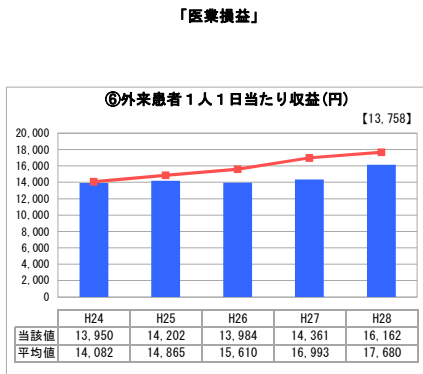
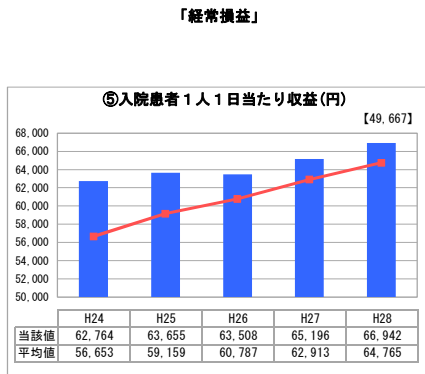
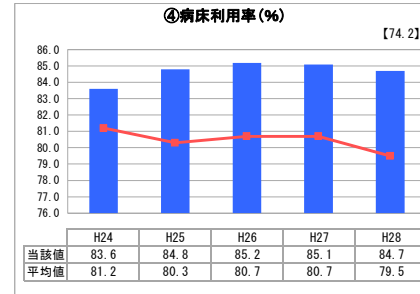
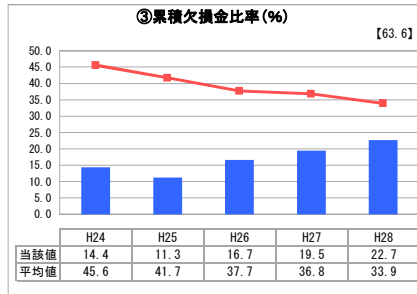
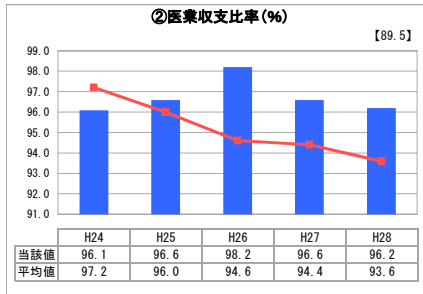
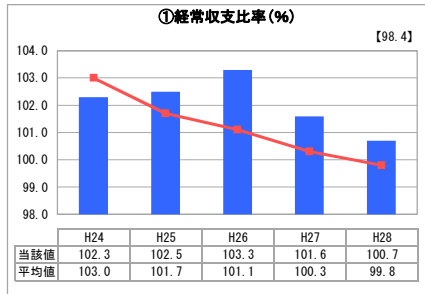
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
624	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	26	650
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
624	-	624

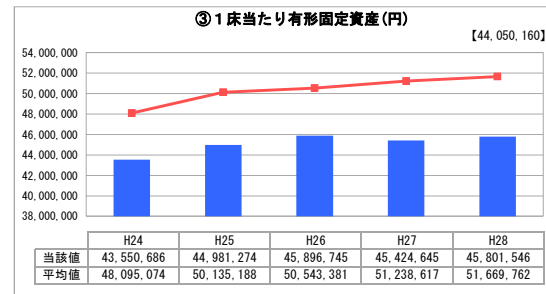
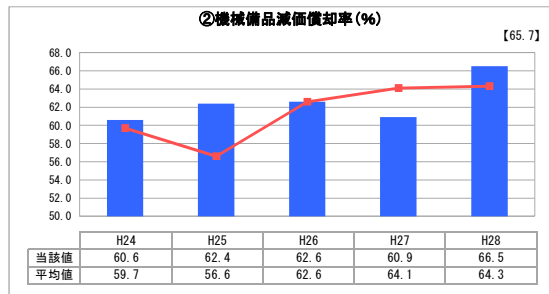
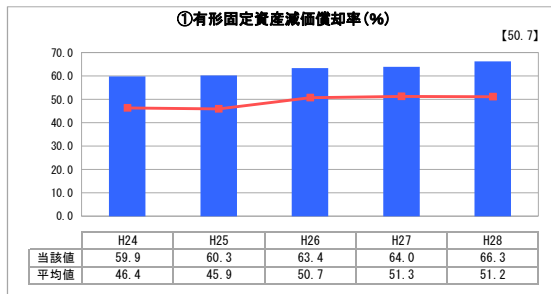
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



I 地域において担っている役割

急性期を中心とした総合的な病院であり、「がん」「救急」「周産期」「感染症」「災害医療」等、地域から必要とされる政策的医療及び高度急性期医療に積極的に取り組んでいます。将来にわたって地域医療のリーディングホスピタルであるために、より一層の医療機能の充実・強化を図りながら、良質で先進的な医療を提供していきます。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「入院患者1人当たりの収益」及び「外来患者1人当たりの収益」は近年増加傾向にあり、医業収益自体も年々増加しています。その一方で、医業収益比率や経常収益比率は横ばいもしくは低下傾向にあることから、他の公立病院と同様に、増収・減益傾向となっています。とりわけ、恒常的な費用である職員給与費及び材料費の動向を示す「職員給与費対医業収益比率」「材料費対医業収益比率」が、横ばいもしくは上昇していることを見ると、今後の経営に当たっては、これらの費用をいかに抑制できるかがポイントとなってきます。業務の効率化による超過勤務の抑制、共同購入の推進や品目数の削減など更なる経営改善を進めていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

施設全体の老朽化の状況を「有形資産減価償却率」を見ると、平成28年度末で、66.3%となっており平均値と比較しても10%以上の乖離があります。事実、現在の市民病院は、老朽化及び狭隘化が進んでおり、手術待ちの期間が長期化していることなどを考えると「良質で先進的な医療を提供すること」・「総合的な市立病院として患者にあらゆる医療ニーズ応えること」といった当院の使命を十二分に果たしているとは言えない状況となっています。そういった課題を解決するため、現在、新病院の建設を進めており、平成32年開院が待たれる状況となっています。

全体総括

経営面において、費用の抑制等の課題は残るものの、総合的に見れば、平成28年度決算においても経常黒字を達しており、現在は良好な経営状況と言えます。しかしながら、新病院建設後は、減価償却費等の負担増による収支の悪化が見込まれており、再整備事業に関する建設改良費の負担を少しでも軽減するため、引き続き経営改善に努めていく必要があります。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

神奈川県横浜市 脳卒中・神経脊髄センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上~400床未満	民間企業出身者
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	ドI訓	救 臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
3,735,843	38,737	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

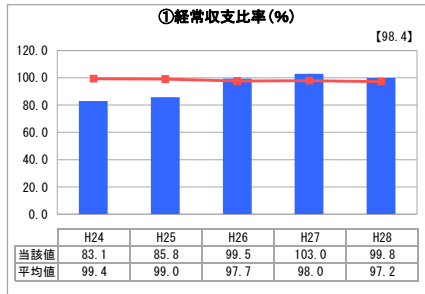
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
300	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	300
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
300	-	300

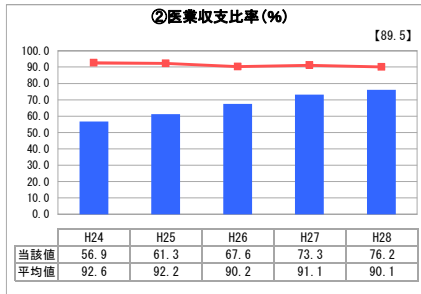
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

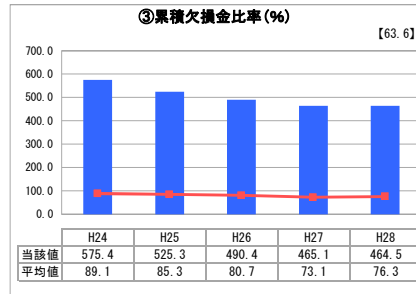
1. 経営の健全性・効率性



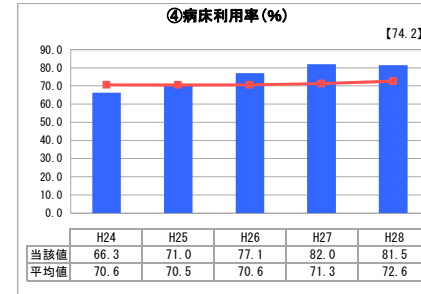
「経常損益」



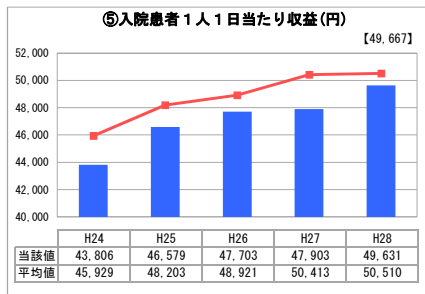
「医業損益」



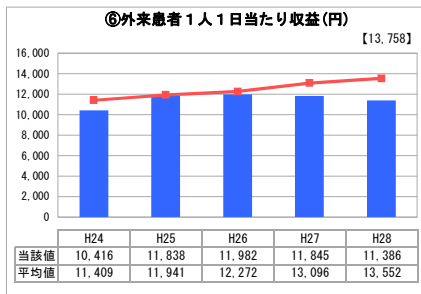
「累積欠損」



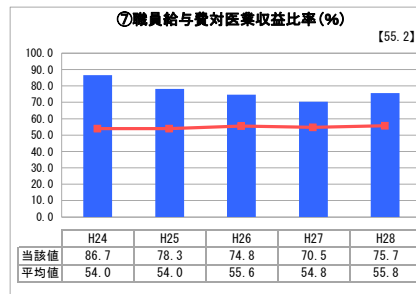
「施設の効率性」



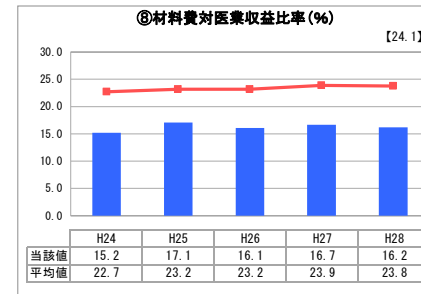
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

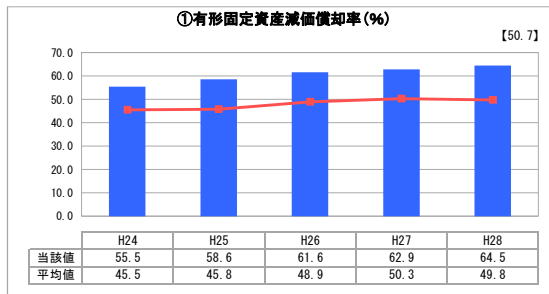


「費用の効率性①」

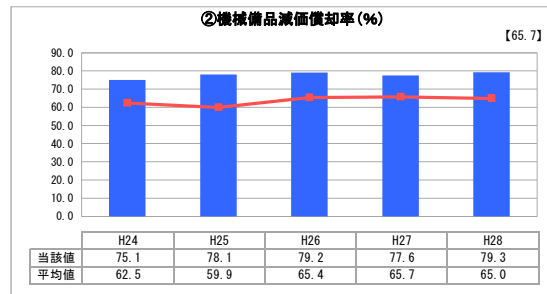


「費用の効率性②」

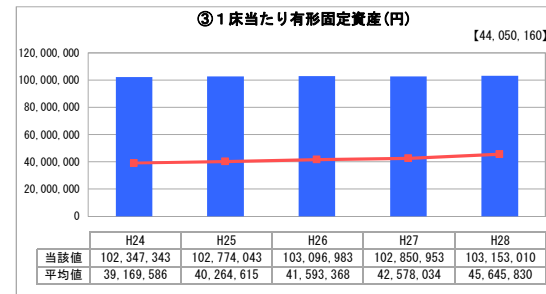
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

政策的医療を含む中級神経全般に対する高度急性期・急性期から回復期までの一貫した医療機能を活かし、「脳卒中」「神経疾患」「脊髄脊髄疾患」「リハビリテーション」の専門病院として先進的な医療と臨床研究に取り組んでいます。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成27年と比較して、延入院患者数が大きく減少したことや外来の診療単価が落ち込んだことで、医業収益が伸び悩んだことに加え、人員増等による影響から職員給与費が大幅に増加したことで、経常収支は悪化しました。これを裏付けるように「職員給与費対医業収益比率」は前年に比べ5ポイント上昇しています。再び経常収支を黒字にするために、新規患者の獲得と費用の抑制に努め、安定した経営基盤を確立することが急務となっています。

2. 老朽化の状況について

老朽化の状況を示す各指標を見ると、「有形固定資産減価償却率」「機械備品減価償却率」ともに平均値より高い数値となっており、指標上は老朽化が進んでいると言えますが、市民病院のように建物自体の建替の必要はありません。課題となっているのは、現在償却が進んでいる有形固定資産について、順次耐用年数を迎えることから、建設改良費の増加が今後見込まれることです。これらの資産のメンテナンスに努め、今後の建設改良費を抑制することが、経営上必要となっています。

全体総括

平成27年度に開院後初めての経常黒字を達成したものの、平成28年度は再び赤字に転落しました。経営分析の結果としてあがった新入院患者の獲得と費用の抑制という課題を解決していくため、具体的な業務フローの中での問題点を洗い出し、業務改善を積み重ねていくことが必要となっています。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

神奈川県横浜市 みなと赤十字病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	民間企業出身者
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(利用料金制)	36	対象	透I未方	救臨が災地
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
3,735,843	74,148	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

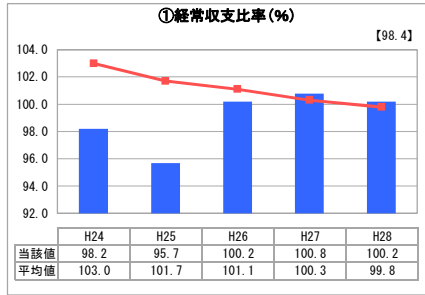
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
584	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
50	-	634
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
584	-	584

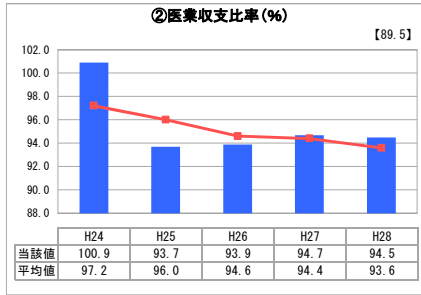
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

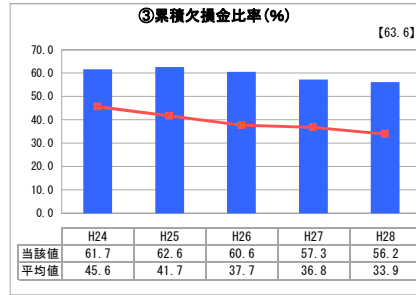
1. 経営の健全性・効率性



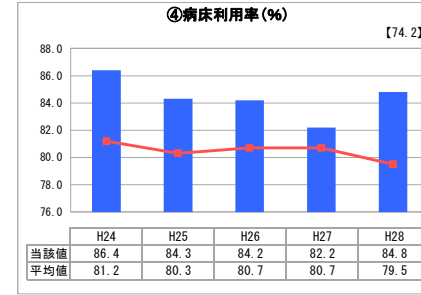
「経常損益」



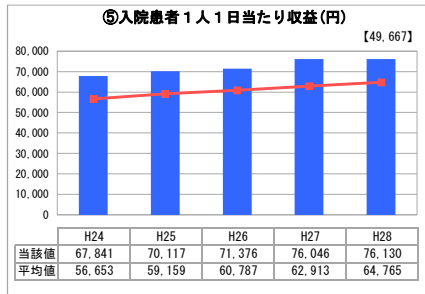
「医業損益」



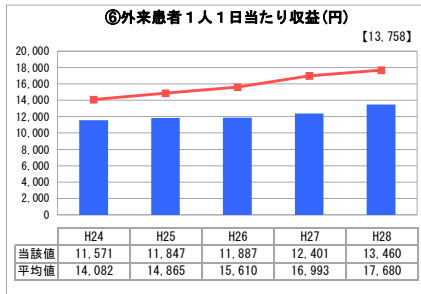
「累積欠損」



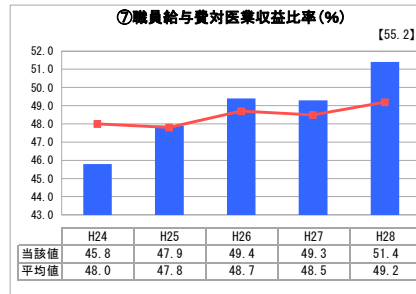
「施設の効率性」



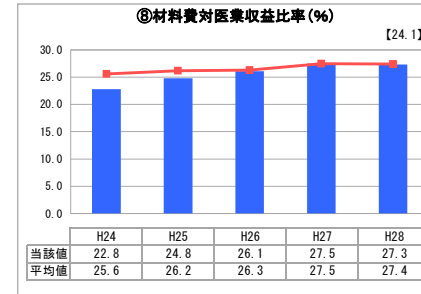
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

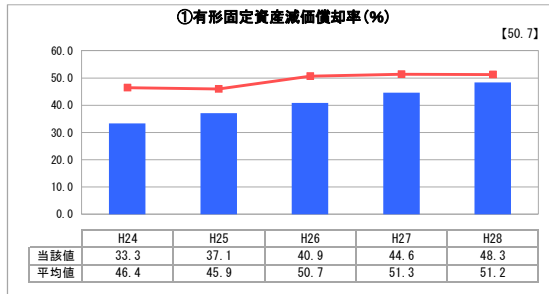


「費用の効率性①」

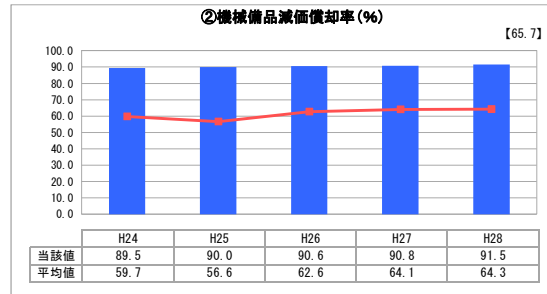


「費用の効率性②」

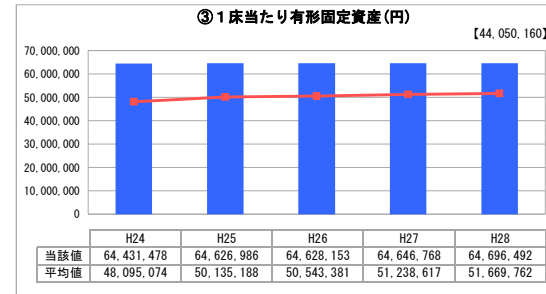
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

日本赤十字社を指定管理者とし、本市との協定に基づいて「救急」「精神科救急」「合併症医療」「アレルギー疾患」「災害時医療」などの政策的医療を安定的に提供しています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本経営指標は、横浜市のみなと赤十字病院にかかる決算と指定管理者側の決算を合算したものと なっていますが、平成26年以降3年連続で経常黒字を達成しています。「入院患者1人1日あたり収益」及び「外来患者1人1日あたり収益」も増加傾向にあることから、今後も健全な経営を保っていくためには、新規患者の獲得への取組みが重要となってきます。本市としましては、委託者として、指定管理者の取組みを注視していきます。

2. 老朽化の状況について

施設全体の老朽化状況を示す「有形資産原価償却率」を見ると、平成28年度末で48.3%と平均値を上回っているものの早急な対応が必要という状況ではありません。その一方で、「機械備品減価償却率」を見ると、平成28年度末で91.5%となっており、機械備品の多くが一斉に耐用年数を迎える可能性があります。そのため、更新費用等が一時的にかさむ恐れがあることから、計画的な保全・更新に努め、現金支出の平準化を図っていく必要があります。

全体総括

平成28年度においては、3年連続の経常黒字を達成していますが、職員給与費が将来的に増加していくことや、平成31年10月より消費税率が上がることを考えると、引き続き積極的な経営改善に取り組んでいく必要があります。本市としましては、指定管理者の動向を注視しながら、適切に評価・助言を行っていきます。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。